

平成 28 年度第 1 回古賀市補助金審査委員会 議事録（要点筆記）

【会議の名称】 第 1 回古賀市補助金審査委員会

【日時・場所】 平成 28 年 5 月 13 日（金） 14 時 00 分～17 時 45 分
市役所第 1 庁舎第 2 委員会室

【主な議題】

1. 開会
2. 会議の公開について
3. 委員長あいさつ
4. 実績報告及び評価
 - (1) 実績報告及び評価
 - ① 古賀市における園芸福祉事業 古賀市緑のまちづくりの会
 - ② 定期演奏会 古賀市民オーケストラ
 - ③ 夏休みこども体験教室 特定非営利活動法人古賀市文化協会
 - ④ 第十回古賀市「第九」演奏会 古賀市「第九」実行委員会
 - ⑤ 演劇ワークショップ「嵐の夜～私の住むまち～」 古賀市市民劇団DAICOON
 - ⑥ 絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業 古賀アートフレンズ25
 - ⑦ 古賀市商工会クリスマス市民祭 古賀市商工会
 - ⑧ 古賀市商工会駅前商店街土曜夜市 古賀市商工会
 - ⑨ 古賀市PRワークショップ 特定非営利活動法人晴天人
5. その他
6. 閉会

【傍聴者数】 0 名

【出席委員等の氏名】

委員：宗像優委員長、今村晃章委員、三上伸充委員、山崎あづさ委員
事務局：星野孝一財政課長、内裕治財政係長、田中智実主任主事、大川宗春主任主事
担当課：介護支援課 梅谷佐和子介護予防係長、岩熊和洋業務主査
文化課 金子由美子文化振興係長、田中音羽主事
商工政策課 中村和博商業観光係長、前田典啓業務主査

【庶務担当部署名】 総務部 財政課 財政係

【委員に配布した資料の名称】

資料番号	名 称
1	実績報告書及び評価書類
2	実績評価票
3	平成 28 年度スケジュール（予定）

【会議の内容】

○会議の公開について

(事務局) 合議制の審査となるので、古賀市情報公開条例第7条第4号の公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるものと判断したことにより、非公開。

○実績報告及び評価

本日は平成27年度採択の17事業のうち9事業の評価を行う。

① 古賀市における園芸福祉事業 古賀市緑のまちづくりの会

補助申請額：195千円 補助実績額：195千円

【質疑応答】

(委員) 収入の面はともかくとして、高齢化が進んでいて、実際の活動が先細りしているとされているが、昨年度、そのあたりをクリアするためにした努力や実際に努力した結果、どういう方向に向かっているのかを聞かせていただきたい。

→ (介護支援課) 園芸福祉において、成果はなかなかでにくいところがあるが、会と地域とのコラボという形で活動が行われている。その時々、さまざまな方とコラボすることによって、植物を育てる中で感性を育成していくことが、先々に人材がふえていくという長いスパンでしか実現できていないのが現実。しかしながら、今年、ふれあいセンターりんという介護施設で高齢者の活動を行いながら畑づくり等を行う団体があり、その方々と花を育てる活動を行いながら、人材を育成していこうとする取り組みも始めている。また、次世代の育成という点で、小学校の子どもと一緒に地域の独居老人に植物をプレゼントし、7月に再訪問して見守りを兼ねた声かけを行う活動を行っている。こうした活動が、園芸福祉のつながりであり、長いスパンでは子どもの育成につながっているというところでは、目に見える人数の増加はないが、将来に期待をしているところがある。

(委員) 組織を維持し、継続可能な形で活動していく際に、活動できる人材の確保や、財政的な自立に向けた取り組みは、やっているのか。

→ (介護支援課) 人材確保は、この団体以外にも高齢者の介護予防のすべての課題であり、長期の展望を視野に入れていないとなかなか難しい。経済的な自立に向けて、参加料をとって苔玉づくり講座を行ったり、自分たちが育てた苗を売る活動で収入を得ていく努力をされている。

(委員) 28年度分の交付申請に、自立に向けた行動計画書を添付することになっていたと思うが、出ているのか。

→ (事務局) 事業によってはまだ申請が出ていないものもあるので、申請段階で、各団体で行動計画書の添付が必要かどうかをチェックしていきたい。

(委員) 古賀市広報の4月号で65歳以上を対象として介護予防事業が利用できるという情報を見たが、この活動自体を介護保険の予防事業の対象にすることはできないか。

→(介護支援課) 地域活動に貢献する事業を行うサークル活動に対し、市でポイントを付与しながら推進をしていく事業がある。一般の介護予防制度以外に適用させるところで、緑のまちづくりの会が参加されることは可能。しかしながら、市の介護保険の中で、市民活動が、公的な部分で地域活動に対して直接補助するものは、今のところは、対象になる部分がない。

【委員のコメント】

(委員) 活動を縮小してでも、自分たちの組織の体制をしっかりと整えていくとか、継続して息の長い活動をしていく方法もあるのではないかと。団体の自立した活動に向けての財政面、高齢化に対する体制面への改善の取り組みを加速させないといけな。担当課からは、長い目でという話があったが、それはここ2、3年であっても継続して活動できる見通しがあるのものである。団体にとっては生き残りを図っている状況で、活動で手いっぱい考える時間がないというぐらいであれば、活動を縮小してでも、補助金が終わったあとにも継続して活動できるようにどうするかを考えながら作戦を立てて実行していくところをしっかりとやっていただきたい。

(委員) 前年度と比べて参加者数が増えている点では、努力されていると評価できる。将来的なことを考えたときに、行政、学校、介護事業所、地域の依頼に基づいて応えていこうとする場合には、活動に必要な経費については徴収することを検討してもよいのではないかと。

(委員) 団体の活動自体は、とても充実していて、内容に工夫もあり、非常に有意義なものだと思う。高齢化等の問題点については、団体自体も認識は持っているということだが、活動が充実している分、担う方たちの負担が多いことで、逆に担うことにちゅうちょする人がいるのではないかと。今いる方のマンパワーでこれだけできたとしても、それをそのままの状態ですぐに担う人を探すのはなかなか難しいだろうと思うので、少しずつ振り分けたり、ボランティアを募るとかで、担い手を探すやり方も工夫したりして、少しずつでも、取り組んでいってほしい。

(委員) 団体の活動が公益性や必要性という面で、非常に高く評価されていると思うし、団体の皆さんも、やりがい、生きがいを感じながら活動されていると思う。ただそこで、団体がやりたいこと、やるべきことはたくさんあるが、結局現状ではお金もないし人もいないところが課題になっていると思う。補助金がなくなった後、今までやってきたことよりは活動量は少なくなるかもしれないが、今あるお金と人で、本当に必要でやらなければいけない最小限の活動を念頭に置きながら、平成28年度の活動をしていただきたい。

- ② 定期演奏会 古賀市民オーケストラ
補助申請額：473千円 補助実績額：473千円

【質疑応答】

(委員) 入場者数の増加について、努力した結果増えたのか。たまたま増えたのか。

→ (文化課) 団員各自がポスターやチラシ等を配ったり、区長にお願いしてチラシを配布していただいたりした結果、増加したと報告を受けている。

(委員) これ以上議論の余地がない程、努力したということによいか。そうであれば、そもそも企画に無理があるという話になるのではないか。補助を受けて3年目で補助金が切れることを見越した活動を考えていく必要があると思うが、団体の中で、または担当課との間で議論しているか。

→ (文化課) 今後、自立のために団体が検討している内容として、オーケストラ構成規模の縮小や団員の確保の継続、検討中だがスポンサーの確保のため企業にかけ合っていくとの報告を受けている。

(委員) 規模の縮小は今年度からという解釈によいか。それとも補助金が切れる4年目からという話か。

→ (文化課) 3年目に関しては、団員の確保のために、今までの規模で実施する予定だが、補助金がなくなると規模の維持が難しいので、4年目以降に検討しているようだ。

(委員) 入場者の増加ということだが、資料にある来場のきっかけを見ると、ポスター、チラシ等があげられているので、団体のPR活動の結果、入場者数が伸びたと考えられるかもしれない。このような点をもう少し、増やせるような方法を検討してはいかかといったメッセージも、先ほどの委員の発言には含まれているのではと思う。

(委員) 収支報告をみると、団員からの会費121千円を事業費として充当しているが、会費収入は団員62名から月2,000円集めているので150万円弱はあるはずだ。会費の残額は何に使っているのか、定期演奏会に充当できないのか。

→ (事務局) 確認の上、後日回答する。

(委員) 補助金がなくなった後、収入面を増やすという観点で考えれば、検討できる点だと思う。

→ (事務局) 団体の平成28年度予算をみると、一般会計と定期演奏会に係る費用の特別会計の二つに分けて運営している。一般会計の収入として会費から40万程度見込んでいる。恐らく、定期演奏会については、補助金の不足する部分を会費で埋めているような状態ではないかと思う。

(委員) 団員を増やそうとしているが、規模や具体的な戦略、今後の活動展開等、何か将来に向けたビジョンを団体で考えているのか、あるいは担当課と協議しているか。

→ (文化課) 団員が増加することで、支出の客員への報償費を減らす。また、団員の会費を今年度から増額して収入を増やすといった形で自立に向け取り組んでいるようだ。

→ (事務局) 団体から直接聴取していないが、事例発表会の中で、団体としてはあと10人増えたらという見込みで収支を作成している。団体としては、団員増の見込み数について、ある程度算段しているのではないか。

【委員のコメント】

(委員) 団員増や、クオリティ、団体維持の話は連動していると思うので、団員増について、具体的に、どのような人を何人、いつまでにどう増やすのか、そのためにどう動くのかといった戦略を早急にたて、行動に移していただきたい。具体的に行動した後で、報告を聞かせていただきたい。

(委員) 平成 26 年度報告会でトランペット演奏について叱責を受けたと聞いたが、今年はそのようなことはなかったようだ。今後も演奏会の質が保たれるようであれば、入場料金について収入総額の観点から検討してはどうか。入場者数のうち高校は試験前だったために減っているとのことだが、確かに他は増えている中、学生だけが去年に比べて少ない。学生の入場者数の増加は収入増にはつながらないが、将来のことを考えれば、試験期間と重ならないように期日を設定して、多くの学生に来てもらうという対応が可能ではないかと思うので、検討していただきたい。

(委員) 前年度に比べて、チケット売上枚数からして 90 名程度客が増えた点はとても評価できる。ただ、努力した結果、目標の半分であったということは、抜本的に検討し直す必要がある。演奏会の内容が、クラシック音楽の知識がない人にとっては敷居が高いのではないか。団体の目的が「市民が気軽にクラシック音楽に親しむ」ということを考えても、市民が親しみやすい楽曲を演奏する等の気軽に楽しめる要素を取り入れて集客増を図る検討をしてはどうか。また、団員募集の点でも、初心者や興味がある人にも門戸を広げる工夫が必要ではないか。そうすることで、市民レベルの、もっとオリジナルな古賀市の団体になるのではないか。

(委員) 市民が気軽に参加できるような、クラシックの知識がなくても行ってみようと思わせるような工夫が何かできればと思う。楽器の紹介や楽曲の紹介を加える等、初めて鑑賞する人でも学びながら聴けるような点を充実する等の工夫で、古賀市オリジナルのオーケストラになっていくのではないか。また、団体自身も自分たちの現状や課題、今後の策について検討はしていると思うが、具体策についてもう少し改善の余地があると思う。例えば、福祉団体や高齢者施設、高校生への声かけのタイミングの問題等、やるべきことは分かっているようだが、どうすれば効果的かという点まで、しっかり検討していただきたい。委員会で出されたアンケートをすべきという意見を受け、実際にアンケートを実施された点は非常によい。アンケートを継続し、団体自身の状況を徹底的客観的に分析して、しっかり取り組んでいただきたい。

(委員) 団体にとって、定期演奏会を続けていくことが、プラスなのかどうか検討した方がよいのではないか。他の委員が指摘するような、市民に親しみを持ってもらうような取り組みを行う方が、団員が多く集まるとか市民にとってより身近になるということであれば、そのような面に力入れる方法もあると思う。補助金を申し込まれるのはよいが、定期演奏会を自分たちがやりたいから申請するのではなく、団体の存続や継続した活動にとってよいか、市民にとってどうか、文化の押し売りではなく市民から求められるものは何か、

市民に直接伝えられるものかという視点で考えたときに、果たして定期演奏会はどうなのかというところから考えていただきたい。

- ③ 夏休みこども体験教室 特定非営利活動法人古賀市文化協会
補助申請額：212 千円 補助実績額：212 千円

【質疑応答】

(委員) 補助対象外経費の費用弁償について担当課でお金の流れがわかれば教えてほしい。
→ (文化課) 文化協会会員の受付スタッフ等の費用弁償が充てられたという報告を受けている。

→ (委員) その辺りの費用は補助対象経費にならないのか。

→ (事務局) 会員への費用弁償ということが引っかかっている。公募型補助金の報償費は会員外の講師の謝礼等であり、会員への手当については人件費に当たるということで対象としていない。

→ (委員) 参加費 69,500 円の内、補助対象経費が 13,500 円しかないことについて、こういうことが影響していることを担当課は把握しているのか。

→ (文化課) 参加費については、補助対象外に充てていると聞いている。

→ (委員) それで大丈夫なのか。

→ (事務局) 補助金については人件費等、対象外となっているものがある。それ以外の収入を対象外にあて、残額を充当しており、それ自体は問題ない。

→ (委員) 整理すると、参加者 1 人あたり 100 円で 695 人が参加しているので 69,500 円の参加費だった。そのうち費用弁償として 56,000 円を使い、残りを補助対象事業費の収入に充てたということか。

(委員) 将来的には、寄附金の募集や企業への協力依頼等を行えば自立できていくということなのか。それについては事前に目鼻はついているのか。

→ (文化課) 団体から直接をめぐり立っているという報告は今のところは受けていない。一応、そういう方向性もどうかと担当課から提案している。

→ (事務局) 先日の報告会の際に文化協会としてスポンサーの割当を行っているといっていた。あれもこれもスポンサーに求めることは難しいとのことだった。

【委員のコメント】

(委員) 現状の収入と支出を考えると、活動自体が自立できないことはないと思う。ただ、この規模を維持してずっとやっていくことは今後、寄付や協賛金がないと無理な気がする。自分たちの戦略の中で、集中と選択が必要になると思う。また、補助金をもらった 3 年間で、法人として得られた成果はどういうところにあるのか、補助金を得てやった事業により何を、それを今後の活動に生かしていくのかがあまり見えていない。3 年が終わるというところに関して、その辺を考えていただくことが必要だと思う。

(委員) 当初申請時にはなかった参加費や保険料等をとるべきではないかという指摘のと

おり、実際、100 円を徴収し努力したと同時に、印刷代等も抑えた形で支出しているので、そうした無駄な経費を節約しながら、今後も進めていただきたい。今の時点では難しいと思うが、将来的には事業に係る 20 万円の財源をどうするのかという意味での参加費の検討と、講座が定着して将来的に会員になっていくことを考えれば、将来的に講座開設に伴う負担金も検討できるのではないか。

(委員) この2年の活動を見ていると内容は非常に好評で、参加も多く、定着していきそうに思う。あとは、自分たちで収支を補助金に頼らずにできるよう工夫していけば、団体が出来るようになるのではないかと思う。頑張ってください。

(委員) 参加費を徴収してはどうかと指摘したことで、団体がそれを踏まえて参加費をとった。また、その他の経費削減に取り組んでいる。その点は本当に努力として見えておりよい。しかし、695 人が参加して、69,500 円の収入はあったが、補助対象経費として充当されている金額が少ないことは少し気になる。0 円から 100 円に上げて、また次年度に 200 円や 300 円に上げることは難しいと思うが、自立に向けて、活動に必要な 23 万円をどう賄っていくのか、今後も引き続き検討していただきたい。

④ 第十回古賀市「第九」演奏会 古賀市「第九」実行委員会

補助申請額：409 千円 補助実績額：409 千円

【質疑応答】

(委員) 通信費が増えた理由及び内訳は何か。

→ (文化課) 通信費は、広告料の依頼や団員の獲得等、各実行委員が主に電話でやりとりをした電話料を計上したことによって、通信費が大幅にふえたと報告を受けている。

(委員) 参加者が減少傾向にあるとあったが、その原因はつかめているのか、どうお考えなのかお尋ねしたい。

→ (文化課) 今のところ、団体、担当課も含めてつかめていない。

(委員) 観客動員は減少傾向にあるが、かけた電話代は結構かかっている。広報にお金をかけたが、参加者が減ったということは、一般的には、内容に問題がありということになる。企画に問題があるということになるのではないか。減少傾向にあることは認識しておられると思うが、広報手段ではなく、内容的なところについて工夫している点とか、改善していく話はあるか。

→ (文化課) ソリストの知名度によって、遠方からも観客がふえている実績があるので、ソリストの選定に力を入れていきたいと報告を受けている。

→ (事務局) 基本的には第九を演奏するというだけでやっているが、この事業では、実行委員会形式をとっていることで、事務の引継ぎがうまくいっていないような感じを受けている。財政課としては、委員会形式で継続をするのは無理があるのではないかと考えている。以前にもあった、毎回組織のメンバーが変わっているのが、本当に団体として継続されたものになっているのかという委員の指摘につながってくるのではないか。今回

の参加者や観客の増減や、対象経費が変わっているところはそういったことが影響しているのではないかと考えている。

(委員) 参加者 120 名の内訳はどうなっているのか確認したい。

→ (事務局) 資料の中に報償費の支払先の数量が掲載されている。これに参加者 45 名を足したものになると思われる。詳しくは、担当課を通じ団体に確認させていただきたい。

→ (委員) 参加者が 45 名とするとオーケストラが相当数増えていると考えられるため、その数は確認したい。

【委員のコメント】

(委員) 実行委員会というのは、プロジェクトという位置づけのときあるいは多様な人たちがかわってやるときに使われるものであると思うので、委員が総替えという話では事業の継続性の点で疑問がある。今後の補助金の出す、出さないの判断材料にもなりうるので、組織のあり方を今後考えていただきたい。責任の所在がはっきりせず、そもそも誰がやっているものか、透明性のあるものでないと集まるものも集まらないこともあるので、イベントとして、収支とんとんでやるという話ではなく、団体としてきちんと自立した活動にしていくことが必要ではないか。

(委員) アンケート調査を確認すると、感動を得たというような回答が記載してある。来た人は、割と感動してあるが、その人数が 26 年度から比べると大幅に減った状況があるので、内容もともかく、民間の情報誌等も利用する等して周知する方法をいろいろと検討するとよいのではないか。財政的に将来自立する方向にしていくとして、409,000 円の補助金対応として、入場者を 300 名程度増やさないといけない計算になるので、相当な努力が必要。

(委員) 来場者が減っている点は、残念だったと思うが、委員会でもお願いしていたアンケートをとって、自由記載欄にかなり色々な意見を書いてもらっているので、これが今後改善していくにあたって、とても貴重な材料になると思う。団体の体制を 1 年でぶつ切りではなく、ちゃんと引き継いでいけるような体制にした上で、前年度の反省を生かして、戦略や対策を立て、観客や参加者を増やすことにつながるよう、運営を工夫していただきたい。

(委員) 報償費に関して、資料に細かく書いてあり、色々と努力をされていることが伺えるので、非常によい印象がある。委員会でアンケートを実施するようお願いしたところで、実際に実施していただいて、きちんと集計して、自由記述も書かれてあり非常によかったとは思いますが、アンケートは、やるのが目的ではなく、その結果を現状分析して、その課題を見つけて、対策をとるためのものであるので、集計の結果と自由記述プランがただ羅列されているだけではなく、きちんと分析をして、問題点や課題を見出し、観客を増やすための具体的な戦略を示してもらえるとよりよかった。

(委員) 参加者も減っている状況であるため、参加者の声もアンケートをとるとよいのではないか。

- ⑤ 演劇ワークショップ「嵐の夜～私の住むまち～」 古賀市市民劇団DAICOON
補助申請額 500 千円 補助実績額 500 千円

【質疑応答】

(委員) 助成金がとれた場合の事業計画となっているが、とれなかった場合に経費を下げるしかないのか、もしくは違う方策をもっているのか。

→ (文化課) 毎年 2、3 個補助金を申請するが、通らないという結果が出た場合は、衣装の装飾品や大道具等もなくしてしまう等の費用の削減で対応していくことで報告を受けている。

(委員) 市以外の補助金等を収入できていない状況だが、助成金をとれない理由はなにか。

→ (文化課) 特別にとれない理由はわからないが、26 年度申請していた三菱の件は、1 回限りしか通らないものだから獲得できなかったものであり、27 年度は、文化庁のコミュニティー助成事業に申請したが、結局通らなかったと報告を受けている。

(委員) 理由の分析ができていれば、今後の補助金獲得が見込めると思うが、通らなかった理由の分析は行っていないのか。

→ (文化課) 恐らく何故とれなかったかまでは分析していないと思う。

→ (委員) 市民活動自体が広がって、団体の数は増えてきており、補助金が出る、出ないは、応募する団体が増えているが、お金を出す側の行政や民間財団の財源は、減ってきている状況からもわかる。基本的に、どんどんとりにくくなっている傾向は出てきているにしても、そんなに簡単にとれるものではないというのが前提であると思う。それにしても、何故とれなかったのかの分析はしたほうがよい。

(委員) 入場者や広告料が減っている点について、何か理由があれば教えていただきたい。

→ (文化課) まず広告料の減少については、団員の保護者の方がとってくる形式でやっており、団員がやめたためパイプがなくなり、別の方が行っても断られるということがあって減少したと報告を受けている。また、入場者の減少については、例年 10 月ごろに実施していたものが、リーパスプラザの工事の関係で、世間一般的に忙しいとされる 12 月に移動した結果、入場者数が減ってしまったのではないかと報告を受けている。

(委員) 助成金がなくなって、入場料広告料も減っている中で、それに対応するために参加費を増やしたということだが、1 人当たり幾らから幾らぐらいに増えたか。

→ (事務局) 去年の実績を見ると、劇団の会費から 594,000 円出ているが、本年度資料では、劇団の会費から 492,000 円と、公演参加負担金という新たな負担金が発生していることになっている。詳細については、団体に確認させていただきたい。

【委員のコメント】

(委員) 資金調達原則からすると、とれるかとれないかわからない民間助成金をメインの収入に置いてあるのは、団体としては、先行きがあまり長くないと自分たちをアピールしているようなもの。1 年目から方向の転換が必要という話があったが、まだ方向転換し

ていないところを見ると、危機意識が足りないと言わざるを得ない。そもそも、自分たちの今のクオリティや規模を保つためにいっぱい補助金を応募しないといけないようになっている。お金があるときだけ劇ができればよいという話では、サークルと同じで市民公益活動団体ではない。社会貢献のために継続していくという話であれば、目的を達成するために、自分たちなりにどういう近づき方があるのかを考えていただきたい。

(委員) 参加者に負担がその分だけ多くなってでも実施しているということは、評価できるが、526名の観客はいるものの、リーパスプラザの定員には満たない、観客が少ない状況であるともいえる。補助金が当てにできない中では、観客数の増を図るためにどうするかが重要である。リーパスプラザでできない場合でも、小中学校で開催するなどして観客を増員する方法を考えてみる必要があるのではないか。

(委員) 支出を見ると、報償費はある程度プロに頼んでいるので、やむを得ないとしても委託費が多い印象である。これだけの費用をかけて、入場料 1 千円で、会員の負担と補助金に頼っているやり方に疑問を感じる。どこにどうお金をかけて、どこを自分たちでやってという演劇に対する取り組み方を抜本的に見直して、身の丈に合った市民のニーズに合ったものにしてよいのではないか。団員の負担が増え、参加者が減ってしまうと元も子もないので、運営を見直して、長く続けるための予算規模を考えてもらいたい。

(委員) アンケートを実施したので、結果をしっかりと分析して今後につなげていただきたい。今回参加したのは関係者が中心だとのことで、口コミで人を集めるのが一番有力だと思うので、知り合いに頼んで来てもらった人が、これはよかったと、別な人を探してくるような形になるよう、クオリティを高めるとか、色々な工夫をしながら、うまく PR 活動をしてもらいたい。

(委員) 方向性の点で、プロフェッショナルをめざすのか、市民劇団としてやれることを自分たちの最低限のところで行っていくとするのか、焦点がぶれているのではないか。マネジメントはアマチュアなのに事業だけプロフェッショナルクラスの方に持っていこうとすると、バランスが悪くなる。お金のかけ方とか、力の入れようとかのバランスを考えていかないと長く続かない。

⑥ 絵画で古賀市を元気にするプロジェクト事業 古賀アートフレンズ 25

補助申請額 331 千円 補助実績額 331 千円

【質疑応答】

(委員) 協賛金がしっかりとれている主な要因は何か。あるいは、どういうふうに行ったからしっかりとれたのか。

→ (文化課) 報告によると、委員が各自で直接お願いに行かれて獲得したとのこと。

(委員) 絵画教室が実施できていないアクシデントについては今後も起こりうることだと思う。それに対してのリスクマネジメントはしているのか。

→ (文化課) 団体とは直接、そのリスクマネジメントについては話し合っていない。

(委員) 27年度分の申請書で学校別出品数として721品となっているが、偶然一致しているのか。たまたま26年度と比較してみたら、学校別出品数が同じだった。26年度の実績と同じだったと理解する。

(委員) 協賛金の他にここには挙げていない収入があったりするのか。

→(文化課) 他の収入はないと聞いている。

(委員) 作品応募数の目標が3年間で1,500人。平成27年度は721人となっている。目標の達成に向けて、具体的な方策を何か考えているのか。

→(文化課) 学校に直接、団体の代表がお願いしに行き、夏休みの宿題として学校で取り入れていただいているところもある。学校の先生に丁寧に説明し、理解を求めていくと聞いている。

(委員) 実績評価書の効果経済性のところで、額縁等の備品をそろえており、補助金終了後に備えていると書いてあるが、具体的にはどれが該当し費用削減となるのか。

→(文化課) おそらく消耗品費で計上されているものが該当していると思う。

【委員のコメント】

(委員) リスクマネジメントは、企画を考える段階で考えておいたほうがよい。ボランティア団体ではありうる話かもしれないが、補助金を申請して、計画どおりやれなかった。今回はこのケースだけだったが、他にも出てくると団体の信用問題になる。例えば、絵画教室にしてもこの人が倒れたら事業が終わりというのではなく、その他の方法を考えるおくことが必要と思う。今回の経験があったので、同じ過ちを何回もするのは良くない。協賛金をしっかり集められている理由を尋ねたのは、文化課は、担当課として団体が多いため、協賛金を集められているところと集められてないところが出てくると思う。具体的に集めるためにどんな工夫をすればよいのか、どうやったらちゃんと協賛金を獲得できるのか、協賛金を獲得するために何が必要なのかをぜひノウハウを共有していただきたい。文化課からのアドバイスには限界があるし、文化課で協賛金を獲得していくこともないと思う。団体ごとに協賛金を獲得しているところがいくつかあるならば、そこ同士がちゃんと情報交換できるとか、ノウハウ共有できるのかを狙ってほしい。そのため、報告を聞いてないということだが、何故その団体は集めることができているのかを積極的に担当課で聞きに行くとか、分析するとかが必要。例えば、それは実行委員の中で情報共有が徹底されている要因があるのか、一人ひとりの意識が高いとか、ちゃんと戦略がしっかりできている要因があると思う。そこをもう少し深く掘り下げていただき、わかった部分を他の団体に共有する努力をしないと、団体間で差が開くばかりとなる。そういう努力をしていただくと、よりよい方向に行くと思う。

(委員) アンケート調査の結果を添付しているが、費用の削減が消耗品費と印刷製本費で出来ればよいが、それをいかに協賛金で賄うかに努力をしていただきたい。

(委員) 活動自体は市民にも好評の様子。子どもの絵を市民が見る機会が、こういう形で提供されるのは非常によいことだと思う。目標が出品数を1,500点にしたいとのことだが、

以前の資料を見ても、古賀市の全児童数が 3,284 人で、半分の児童に対して出してほしいという目標となると、基本的に募集の方法が、学校を訪問しお願いをして、夏休み明けに回収するスタイルなので、その辺りの学校との連携に今後どのように力を入れ、あるいは学校にどういう協力を求めるのか。連携を深めていく方向が必要だと思う。

(委員) 応募数を倍増させたいということに関して、この事業はあくまでも絵画で元気になる事業で、小学生の絵画に限定されている訳ではないので、対象を中学生や幼稚園に広げたり、老人ホームや障害者ホームにもアプローチするのもよいと思う。絵画の対象を増やせば、協賛金を出そうと思う会社も増え、収入の増加にもつながるかもしれない。限られた時間の中で小学校に通うだけでも大変だと思うが、今後はそういったことも念頭に置いていただいてもよいのではないか。

(事務局) 先ほどから出展数の話が出ているが、3年間で1,500点を目指すということなのか、3年間の中で1年に1,500点を集めるという目標なのかがわからない。団体に確認させていただきたい。

⑦ 古賀市商工会クリスマス市民祭 古賀市商工会
補助申請額 447千円 補助実績額 447千円

【質疑応答】

(委員) アンケート結果について掲載がないが、どうなっているのか。アンケート結果を出してきてないところは商工会だけ。他の団体は全て提出している。その辺に関してはどうなっているのか。

→ (商工政策課) アンケートは実施しているが、今回、添付しておらず申し訳ない。来場者のみにアンケートは今回実施されており、事業主や出店者については実施されていない。アンケートの内容は来場者の住所、年齢、性別、このイベントについてどう思うかという内容になっている。結果としては全体の回答数が63人。来場者の内訳として、古賀市内から37人、その他市外からとなっており、市内外を問わず、来場していただいている。年齢については、30代、40代を中心に幅広く来ていただいている。このイベントに対して、支援をしたいかという質問について63人中47人がしたいということだった。一定の支持はいただいていると思われる。

→ (委員) 担当課には報告が来ているのか。

→ (商工政策課) はい。こちらにはアンケートの集計の結果を提出いただいている。

→ (委員) それは文書で届いているのか。

→ (商工政策課) はい、文書です。

→ (委員) そういった資料もつけていただきたい。

→ (商工政策課) 申し訳ございませんでした。

(委員) 来場者が1,000人となっている中で、アンケート回収が63人しかないのはどうしてなのか。

- (商工政策課) イベント来場者に対して 63 人となっているのは、イベントの時間自体が 1 時から長い時間やっており、なかなか来場者からアンケートの回答をいただくことが難しい状況だった。来場者に対してアンケートの回答をしていただく工夫として、コーヒーのサービスをしたりしていた。
- (委員) アンケートを取るのが初めてで、試行錯誤しながらしていたことは理解した。
(委員) 先ほど説明の中で商工会の助成金の話があったが、内部留保金とかそういう助成金なるのか。
- (商工政策課) このクリスマス市民祭は実行委員会形式になっており、商工会が受けてはいるが、商工会の会員で実行委員会として実施している。これに対しては商工会からも助成金を出している。
- (委員) これは飲食店も出店しているのか。その費用は全くとっていないのか。
- (商工政策課) 飲食店は出店している。これまでは出店料を取っていない。次年度以降は徴収する方向で検討している。
- (委員) 飲食店の売り上げは把握しているのか。
- (商工政策課) 1 店舗ずつの売り上げは把握ができていない。今後、事業主や出店者へのアンケートを実施して把握できればと考えている。
- (委員) 全体的に報告書しかないので、把握のしようがない。例えば、写真を撮って記録に残すとか、もともと自分たちはこう考えていたが、結果としてこんな感じになったという報告。外の人にこんな感じだと説明するものはないのか。担当課では持っていたりするのか。
- (商工政策課) イベントの写真はこちらも基本的には提出いただいていない。確かに写真があれば、どのような事業か詳細にわかるので、次回以降はしっかり求めていきたい。また、写真は昨年度の開催内容等を PR するのに役に立つ。実際にどういったことをしているのかイメージが付きにくいものなので、昨年度の状況を説明する上でも写真等記録に残すことが必要だと思う。

【委員のコメント】

(委員) 報告書から熱意が見えてこない。市民のボランティア団体よりもはるかに報告も少ないし、成果もよく見えない。伝わるものが何もない中では、税金を投入する意味がないと言うしかない。次年度の広報のことを考える、周知拡大、参加者の拡大を図るなどがあるが、それ以前に説明責任もあり、しっかりと報告資料をまとめていただきたい。初年度から評価は厳しいところがあるが、今後についてはもっと厳しくなると思う。3 年目が終了した後どうするのかという話ではなく、他のボランティア団体と異なり、自立以前の問題で、今後、市役所や市民と商店街の活性化に真剣に向き合う気があるのかを問われていると思っていただきたい。

(委員) 来場者が 1,000 人ということだが、その結果として商店街の活性化にどうつながっているか疑問。商店街の活性化につながるような形にしてほしい。商工会の助成金があ

るが、将来、市の補助金がなくなった場合、どうするのか。出店料や協賛金等を取るとか、相当の努力が必要だと思う。

(委員) 説明責任という意味からは、申請時と比較してみても、きちんと対応していないのではないかと感じてしまう。前回指摘されたことも改善されているのかもよくわからない。イベントとして商工会独自でしていただくのはよいが、税金として補助を受けているという自覚が足りない。また、今後の収支についても見通しが見えてこない。2年も実施してまだこの状況というのは、かなり厳しいと言わざるを得ない。

(委員) 商工会とか商店街の活性化のためにこの事業が実施されていればよいし、それに税金を投入するのも必要な部分もあるかもしれない。しかし、それに対して金額は非常に大きいと感じる。しかも、商工会からの助成金が減っており、協賛金をもう少しとったらどうかと以前から指摘をしていた中で、協賛金は増えたが、充当額が減っているし、出店料もとってみてはと伝えていたが、27年度はまだとっていない。そのあたりをもう少し考えていただきたい。基本は自立に向けて活動する場合に補助金があるというスタンスを忘れないでいただきたい。税金が投入されている中で、こういった実施報告に関して、きちんと成果が上がってきているように見えない。そういった姿勢も見えない。アンケートについて、回収率もそうだが、来場者以外の出店者や商店街にも、きちんとアンケートを取り、しっかりと分析して今後に生かしていただきたい。

(委員) 現状を確認できていない中で、色々と申し上げていて申し訳ないが、そもそも担当課はどこまで関与しているのか。

→ (商工政策課) イベントの企画運営は実行委員会でやっており、関与はしていない。ただし、補助金の申請をしていただいているので、アンケートが不十分であるかといったことについては意見を伝える。

→ (委員) 商工会がこうなっているのは、今までの流れがあってこうなっているのではないかと思う。ボランティア団体やNPO法人は最近ちゃんと答えるようになっていっている中で、ここはそうになっていないのは今までの積み上げによるものだと思う。しっかり関わるようなことを考えていただいてもよいのではないか。確かに補助事業だから余り口を出しすぎてもよくないということもあるが、逆に補助だからこそ商工会と一緒にあって、事業をやっていききたいかどうかが問われていると思う。もう少し踏み込むか、辞めるかどちらかにしてほしいと思う。だらだらと補助金を出すのは良くないということも補助金改革だったと思うので、そこを考えていただきたい。

⑧ 古賀市商工会駅前商店街土曜夜市 古賀市商工会
補助申請額 463 千円 H27 補助実績額 389 千円

【質疑応答】

(委員) 前の事業と違いすぎるので確認したいが、商工会の担当者が違うのか。

→ (商工政策課) はい。

(委員) もともと1年目の事業のプレゼンテーションを聞いていた時に成り立ちは自分たちが初だと強くいっていたので、モチベーション等がこの事業に出ていると思う。実際に担当課がやり取りしている中での前の事業とのモチベーションの違いとかどのように感じたか。

→ (商工政策課) 商工会の担当者も違い、実行委員会のメンバーも違うということもあり、モチベーションも先ほどの事業より高いと感じている。例えば、新しい取り組み等も取り入れており、集客数の増を図るために、子ども向けのイベントを始めたり、親子連れが参加しやすいように他団体と連携したりしている。このイベントをいかに盛り上げていくかという、モチベーションは高い事業と思う。

(委員) 同じ商工会のクリスマスの方で助成金があるが、土曜夜市にはない理由は何か。

→ (商工政策課) 記載をされている部分だけでの収入と支出が合っているかということになっている。

(委員) 補助金が廃止された場合、商工会からも助成があつて実施していくのか、他の補助金を見つけて継続させていくのか。

→ (商工政策課) 現状としては、さまざまな工夫を行って支出減、収入増を図っている。努力は見られるものの単体で収支をゼロに持っていくところまでは困難だと思う。ただ、このイベント自体は市民からの支持も高く集客数も多いため、恐らく廃止ということにはならないのではないかと。もし継続する場合、商工会から何らかの補てんがあると考えられる。

→ (事務局) 補助金報告会の際に、補助終了後の展望として、出店料の値上げや協賛店の確保等を挙げていた。

(委員) 補助金終了後の見通しというのはもう既に考えているということか。

(委員) 店舗が相当数入って営業されているが、収支状況の把握はしているのか。

→ (商工政策課) 個別店舗の収支状況は把握していない。

(委員) 将来、自立して実施する場合、店舗の収支が良ければ、出店料を値上げすることもできると思う。

→ (商工政策課) 出店料の値上げは今後の検討課題。実際、店舗の収支の状況を把握していないので、今後、現在は来場者にしか実施していないアンケートを出店者にも実施して、適正な出店料を研究していく必要があると思う。

(委員) 成果報告に幼稚園で広報したとあるが、保育所ではしていないのか。

→ (商工政策課) 成果報告に書いてあるとおりになるが、その理由は把握していない。集客を増やす目的で、子ども向けのイベントを増やしており、幼稚園等にチラシを配布している。保育所等にもどんどん広げて行うよう団体にも伝えておく。

【委員からのコメント】

(委員) 補助金がなくなっても、多分継続していけるだろうと思う。残りの1年間は、補助金なくなった後のことを考えた投資という感覚で臨んでほしい。今の感覚で規模感を

維持するのではなく、本当に自分たちができる範囲でのどうよいものにしていくのかを考えて、そのための投資としての1年としてほしい。単純にイベント開催のために経費を投入するという話ではなく、自分たちの商売と同じ感覚で、将来のための戦略的などころを少し考えてほしい。

(委員) 実際に行ってみて、来場者を見ていると満足度も高そうだと感じた。ただ目的は商店街の活性化なので、将来的には商店街の活性化につながるような形がみえるとよいと思う。

(委員) イベントとしては報告会の資料もわかりやすく、いろいろ工夫をして取り組んでいる様子があるので、今後も継続していってもらいたい。課題は収入の面が大きいと思うので、今後、商店街を盛り上げる取り組みにしていくためにも、出店料をもう少し上げるとか、チラシに商店街の広告を載せ、協賛金を得る等、何か収入の面でも、全体で取り組んでいくようなものを考える必要がある。補助金が終わっていきなりというのは難しいと思うので、今年度からは是非始めてもらいたい。収入の面だけでなく、行く人からしても、商工会が全体として取り組んでいるという印象付けの効果もあるのではないかと。

(委員) アンケートの結果を踏まえて、現状分析し、課題を見つけてどのように改善していくのか一生懸命取り組んでいる姿がこの報告書から見るることができる。また補助金終了後も見越して、大きな成果にはなっていないが、協賛金、出店料のアップに取り組んでいるという印象も受ける。今後さらなる努力をしていただきたい。警備員も6名ぐらい採用しているようだが、ぜひ、万全を尽くしていただきたい。

⑨ 古賀市PRワークショップ 特定非営利活動法人晴天人
補助申請額 475千円 補助実績額 475千円

【質疑応答】

(委員) 担当課がやりとりしている中で、熱意ややる気はどうだったか。また、取り組みの状況もどんな感じだったのか。

→ (商工政策課) 街をよくしようという思いは感じられた。ただ、今回の事業については、商店街の活性化ということで実施しており、駅前に立地してギャラリーを通して、人の集客を図るといった内容だったが、なかなか人が集まらなかった。そのため、商店街の活性化にはあまり結び付かなかったと思う。どちらかというと文化芸術振興の側面が強かったと思われる。

(委員) 法人は閉鎖ということになるのか。

→ (商工政策課) 補助金の交付の資格はなくなったが、急に閉鎖するというのではなく、現状は、同じようにオープンしている。ただ、運営の方から聞いたところ、全額自費での運営になるので、長期の運営は困難だろうとのことだった。

(委員) メンバーの脱退等によっても補助金を受けることが出来なくなったということか。しかしながら、今も活動されているということか。

【委員のコメント】

(委員) 当初、プレゼンテーションを聞いている限り、やる気はあるように思えたが、もともと実績がある中での実施ではなく、相応のビジネスベースにのるということが必要だったのかもしれない。また、ビジネスベースにのるような助言が必要だったのかもしれないと思った。商工会の経営相談に参加するでも良かったと思う。ボランティアベースでやるのか、ビジネスベースでやるのか、今回の収支が合わない中である程度、自分たちで出来るかという判断がもっと早くあった方が良かったかもしれない。ただ 2 年で、ある程度見えたということは本人たちにとっては良かったのではないかと思う。あと、委員会が 2 年間補助を出すという判断をしたことはどうだったのかと思うところがある。

(委員) 申請書の中では、年間で 1,500 名を目標としていたが、実際は 427 名ということで、1 日平均にすると、2 名弱だった。駅前商店街の活性化という事業の目的があったわけだが、一店舗ではやはり無理があって、他店舗の連携が必要だったのではないかと思う。竟成館高校や九州産業大学との連携についてはある程度話がついているのかと思っていたが、2 年間で全然話は進んでいないようなので、持って行き方を具体的に検討する必要があったのではないかと思う。

(委員) せっかく 2 年間活動してきたので、今後、このノウハウを活かしてほしい。

(委員) 色々な活動を一生懸命頑張ろうという試行錯誤の中で 2 年間されてきたと思う。なかなか目標に到達できない中で、色々なアイデアを考えて色々な連携したり、取り組みをしていたが、結果として、メンバーの退会等によって事業が困難ということだった。もしメンバーの退会がなかった場合、3 年目どうだったのかということも気にはなる。うまくいかないからと色々なアイデアを出した結果、かえって力が分散してしまい、結局、竟成館高校とも九州産業大学ともコラボレーションの実現に至らなかったということだった。やるべき事業をもう少し絞ってやるほうがよかったのではないか。この晴天人のためにもこの 2 年間は総括していただきたい。また補助金審査委員会でも、また今後、こういった事業が出てきたときに、このことを念頭に置いておいてもよいと思う。

○その他

(事務局) 評価の総括を予定していたが、終了予定時刻を過ぎているので、次回の委員会併せて実施させていただきたい。次回の冒頭で実施させていただく。

以上